



平成27年度 補助事業の申請団体を募集

市民の「元氣・やる氣・その氣」を応援します

◎募集期間 平成27年4月1日(水)～4月30日(木)

市では、協働によるまちづくりの実現を目指し、各種施策に取り組んでいます。平成27年度も市民の皆さんが自主的に企画、運営する公益的な活動を積極的に応援していきます。補助事業の内容は、次のとおりです。

■お問い合わせ 地域協働課協働交通政策班 ☎内線2314

1 やらんば市民活動サポート事業補助金
予算額 440万円

■はじめの一歩部門 市内で活動を始めようとする団体、または活動を行なっている団体で経営基盤の弱い団体に運営費を補助します(運営費補助)。

■活動ステップアップ部門 活動を継続して展開し、事業活動の活性化を目指す団体に対して補助します(運営費および事業費補助)。

■アドバイザー等招へい部門 活動の継続・活性化、団体の自立強化を目的にアドバイザーを招へいし、学習会などを開催する団体に対して補助します(目的補助)。

■新規事業チャレンジ部門 身近な地域課題や多様化する課題など、新しい課題に対する取り組みを展開する団体に対して補助します(運営費および事業費補助)。

平成26年度事業例

- ▶農林水産加工アドバイザー招へい事業(南新会)
- ▶地域コミュニティ推進事業(味菜会)

2 やらんば市民活動ネットワーク促進事業補助金
予算額 200万円

■募集事業 複数の団体がネットワークを確立し、連携して行う事業

■応募資格 補助対象団体は、次の全てを満たす市民活動団体の集合体

- ①代表者が異なる3団体以上の市民活動団体で構成されていること
- ②団体の半数以上が団体設立後3年以上の市民活動団体で構成されていること
- ③団体の半数以上が平戸市内に所在し、平戸市に団体登録された団体で、市内で実施する事業であること

■補助額 1団体あたり10万円とし、1事業あたり50万円を上限として補助率9/10以内

平成26年度事業例

- ▶奥平戸菜の花まつり開催事業(6団体ネットワーク)
- ▶HIRADO DISCO開催事業(5団体ネットワーク)

3 市民力アップ支援事業補助金
予算額 1,000万円

■募集事業 市民活動団体などの拠点施設整備や街なかの休憩施設などを整備する事業

■事業例 空き家などを活用した活動拠点(コミュニティの場)の整備や地域文化の情報発信を目的とした看板の設置など

■応募資格 市内に住所を有する5人以上で組織された団体で、次の要件に該当するもの(※営利団体であっても事業内容が公益的な場合は可)

- ①年間の活動計画が明確であること
- ②申請団体が既存団体の下部組織である場合は、当該事業において上部組織から助成を受けていないこと
- ③対象事業が国、県およびその他の団体などから助成を受けていないこと

■補助額 1団体あたり500万円以内(補助率9/10以内)

平成26年度事業例

- ▶古民家「ひらまつ」施設整備工事(志々伎ヒューマンネットワーク)
- ▶館浦須古踊り保存会拠点施設整備事業(館浦須古踊り保存会)

4 コミュニティビジネス支援事業補助金
予算額 200万円

■募集事業 市民活動団体などの活動の活性化およびコミュニティビジネスによる雇用の促進を図る事業

■応募資格 市内に活動拠点を有する市民活動団体など

起業支援事業

■補助対象

- ①専門家などに依頼するマーケティング調査委託料
- ②先進地研修旅費
- ③事業に必要な研修会開催経費

■補助額 対象経費の10/10以内で、50万円を限度とし、補助金の交付は2回までとする。

事業所設置支援事業

■補助対象

- ①事業所賃借料(保証金、敷金および仲介手数料を除く)
- ②事業所設置に必要な備品のリース代または購入費、消耗品購入費
- ③ホームページ作成にかかる経費
- ④その他広告宣伝にかかる経費

■補助額 対象経費の2/3以内で、50万円を限度とし、補助金の交付は2回までとする。ただし、②・③は1回までとする。

3/7 Hirado City Photo News ペコロスさんの話に感動!



平戸市離島開発総合センターで「ペコロスの母に会いに行く」の著者であるペコロスさんこと岡野雄一さんによる講演会「ペコロスの母に思いを馳せて」が開催されました。この日は、岡野さんが長崎に戻ってきてから母親と同居し、認知症になってから亡くなるまでのエピソードと、映画化になるまでの経緯について講演。また、愛用のギターによるお母さんへの思いを長崎弁で作詞・作曲した自作のライブが行われました。参加した約70人の皆さんは、ペコロスさんの講話と歌に大変感動してる様子でした。

2/28 Hirado City Photo News 市の花木「ツバキ」の魅力を再認識



田平町民センターと平戸市離島開発総合センターで、「平戸つばきフェア」が開催されました。田平会場では「第41回田平つばき物産展」、平戸会場では「第40回平戸つばきまつり」を開催。会場には、たくさんのツバキの鉢物や生け花、切り花、ミニ盆栽などが展示されており、来場者に感想を尋ねると「どの作品も作った人の個性と愛情が感じられ素晴らしい」と感想を話してくれました。また、ツバキを題材にした絵画の展示や苗木の販売、呈茶なども行われ、会場は多くの来場者でにぎわっていました。

3/15 Hirado City Photo News 大人と子どもの対話が大切



平戸文化センターで、「平戸市民生涯学習講演会」(子どもとメディアについて考える講演会実行委員会主管)が開催され、約120人が参加しました。講師にNPO法人子どもとメディア専務理事古野陽一さんを招き、「ネットに奪われる子どもたち～スマホ社会とメディア依存への対応～」と題して講演。古野さんは、スマホ社会の子どもたちの現状や危険性の説明、それらの問題を解決するための具体的な対応策などを提案し、「大人と子どもが対話することで子どもの健康と安全が守られます。」と訴えました。

3/15 Hirado City Photo News 青い目の人形と雛人形が結んだ笑顔あふれるひな祭り



3月15日から4月3日の正午まで、平戸オランダ商館で、「平戸オランダ商館ひな祭り」が開催されています。平戸幼稚園では、88年前、日本とアメリカの友好親善を願って贈られた青い目の人形「エレン・C」と一緒にひな祭りを開催しています。今年は、市民や観光客の皆さんにも一緒にひな祭りを楽しんでもらいたいと、平戸オランダ商館と共催で、同施設で初めて開催しました。15日のオープニングイベントでは、かわいらしい着物と袴姿の平戸幼稚園児26人が、ひなまつりなどの合唱や踊りを披露し、会場は終始笑顔に包まれました。